

平成20事業年度決算について

1. はじめに

国立大学法人金沢大学は、国立大学法人法第35条及び独立行政法人通則法第38条の規定に基づき、平成20事業年度の決算（財務諸表）を取りまとめて文部科学大臣に提出し、9月1日に文部科学大臣から承認されました。

財務諸表は、企業会計原則をベースにして、国立大学法人特有の会計処理を施した「国立大学会計基準」等に基づき作成していますが、これらの規定の一部改訂により会計方針や財務諸表附属明細書の様式を一部追加、変更しています。

2. 平成20事業年度決算の概要

【財務状態（貸借対照表）】

資産の部 1,582億円（対前事業年度 53億円（3.2%）減）

資産については、附属病院の再開発事業、構内道路1号線工事等により建物等の増加はあったものの、減価償却額が増加したため固定資産は30億円減少しています。なお、この減少額は、旧工学部の土地等に係る減損額2億円控除後の額となっています。また、附属病院の再開発事業等に係る期末未払金の減少に伴う現金・預金の減少等により、流動資産が23億円減少となっています。結果、前事業年度に対し資産は53億円減少となっています。

負債の部 672億円（対前事業年度 43億円（6.0%）減）

負債については、附属病院の再開発事業に伴う国立大学財務・経営センターからの借入金の増加、プロジェクト事業進展に伴う資産取得相当の資産見返運営費交付金等の増加はあったものの、財務・経営センター債務負担金の返済による減少により、固定負債が19億円減少となっています。また、附属病院の再開発事業等に係る期末未払金の減少、退職手当支給額の増加による運営費交付金債務の減少により流動負債が24億円減少となっています。結果、前事業年度に対し負債は43億円減少となっています。

なお、国立大学財務・経営センターへの元金返済額27億円は、附属病院収入から返済しており、附属病院収入に対する借入金の返済比率は、13.9%となっています。

純資産の部 910億円（対前事業年度 10億円（1.1%）減）

純資産については、構内道路1号線工事等により増加はあったものの、減価償却（損益外減価償却累計額の増加）による減少、減損会計処理（損益外減損損失累計額の増加）による減少により資本剰余金が13億円減少となっています。また、目的積立金の計画的な執行、当期末処分利益の増加により利益剰余金が3億円増加となっています。結果、前事業年度に対し純資産は10億円減少となっています。

【運営状況（損益計算書）】

経常費用 476億円（対前事業年度 21億円（4.6%）増）

経常費用における各費用の構成比は、前事業年度とほぼ同様となっています。

教育経費、研究経費、教育研究支援経費は、プロジェクト事業の進展により合計で3億円の増加となっています。診療経費は、診療稼働額の増加に伴い11億円増加となっています。人件費は、退職手当支給額の増加、附属病院における7対1看護基準に対応するための看護師増員により10億円増加となっています。さらに、受託研究費等は、受託研究等の採択件数増加により4億円増加となっています。一方、一般管理費は、前事業年度の宝町耐震対策事業の終了等により7億円減少となっています。結果、前事業年度に対し経常費用は21億円増加となっています。

（注）7対1看護とは、入院患者7人に対し、看護師1名を配置していることをいいます。

経常収益 479億円（対前事業年度 21億円（4.5%）増）

経常収益における各収益の構成比は、前事業年度とほぼ同様となっています。

運営費交付金収益は、運営費交付金を財源とする退職手当支給額の増加等により4億円増加となっています。また、附属病院収益は、7対1看護の実施による診療単価の増加、手術件数の増加等により12億円増加となっています。その他の収益も受託研究等の採択件数の増加等により増加しています。しかし、減価償却終了に伴う資産見返負債戻入額の減少、前事業年度の宝町耐

震対策事業の終了等に伴う施設費収益の減少等のため、結果、前事業年度に対し経常収益は2.1億円増加となっています。

当期総利益 8億円（対前事業年度 3億円増）

前事業年度における当期総利益5億円に対して、当期総利益は8億円となり、前事業年度に対し3億円増加となっています。

参考 経常費用と経常収益の推移

経常費用

| 区 分 | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | |
|----------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) |
| 教育経費 | 1,815 | 4.08 | 1,841 | 4.16 | 1,955 | 4.11 |
| 研究経費 | 2,253 | 5.07 | 2,378 | 4.75 | 2,502 | 5.26 |
| 診療経費 | 12,664 | 28.48 | 12,753 | 28.43 | 13,878 | 29.18 |
| 教育研究支援経費 | 499 | 1.12 | 506 | 1.01 | 551 | 1.16 |
| 受託研究費等 | 970 | 2.18 | 1,271 | 2.33 | 1,649 | 3.47 |
| 人件費 | 23,207 | 52.19 | 23,492 | 53.05 | 24,450 | 51.40 |
| 一般管理費 | 2,261 | 5.09 | 2,392 | 4.45 | 1,698 | 3.57 |
| 財務費用 | 795 | 1.79 | 857 | 1.82 | 885 | 1.85 |
| 経常費用計 | 44,466 | 100.00 | 45,490 | 100.00 | 47,568 | 100.00 |

経常収益

| 区 分 | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | |
|----------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) |
| 運営費交付金収益 | 15,891 | 35.84 | 16,451 | 37.47 | 16,897 | 35.25 |
| 学生納付金収益 | 6,537 | 14.74 | 6,421 | 15.26 | 6,351 | 13.25 |
| 附属病院収益 | 17,641 | 39.78 | 18,589 | 38.74 | 19,748 | 41.20 |
| 受託研究等収益 | 976 | 2.20 | 1,275 | 2.34 | 1,648 | 3.44 |
| 寄附金収益 | 945 | 2.13 | 968 | 2.07 | 1,088 | 2.27 |
| 資産見返負債戻入 | 1,360 | 3.07 | 1,281 | 2.91 | 1,236 | 2.58 |
| その他 | 991 | 2.24 | 894 | 1.21 | 963 | 2.01 |
| 経常収益計 | 44,341 | 100.00 | 45,879 | 100.00 | 47,932 | 100.00 |

百万円未満を四捨五入しているため、合計額が合わない場合があります。

附属病院収入（現金収入）の推移

（単位：百万円）

| | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 附属病院収入 | 17,602 | 18,248 | 19,651 |

3.おわりに

国立大学法人金沢大学は、平成20事業年度決算において約8億円の当期総利益を計上しました。これは、主に附属病院における増収努力や全学的な経費節減への取り組みによるものです。

その他、当期総利益に影響は与えませんが、受託研究等の外部資金獲得額も、前事業年度に対し増加しました。しかし、昨年同様、原油価格高値推移、老朽設備備品の更新等の経常的な負担は増加しています。

平成21事業年度以降も、学生納付金の減少など大学運営において厳しい状況が予想されます。附属病院での診療収入を含む自己収入の増収に努めるとともに、経費節減への取り組みを継続させ、教育、研究及び診療が円滑に行われるよう努力していく所存です。

国立大学法人金沢大学

理事（財務担当） 田中 隆治